

道の駅「北川はゆま」機能強化事業 レストラン増築工事に関する意見及び本市の考え方

	意見の概要	本市の考え方
1	<p>道の駅「北川はゆま」はレストランや売店のスペースが広い ため、非常用設備等の整備など工夫することにより、現状 のままでも災害発生時の避難スペースとして十分に活用でき るのではないかと？</p>	<p>道の駅「北川はゆま」は、東九州自動車道や国道10号に隣接していることから、延岡市地域防災計画において、大規模災害時等での国及び県、他市町村からの物資やボランティア等の人的支援を受け入れるための「受援拠点」として位置づけされています。</p> <p>近年は、新潟中越地震や熊本地震等において、避難者の受け入れなど、道の駅の防災拠点としての役割は非常に重要なものとなっており、国土交通省においても、重点道の駅「北川はゆま」の防災機能強化のため、防災倉庫や貯水槽等の整備が行われたところです。</p> <p>そのような中、本市においても道の駅の防災機能強化とあわせて、「食」の魅力を発信するため、レストランの増築を行うこととしたところです。</p> <p>「受援拠点」、「避難所」としての機能を十分に発揮させるためには、営業エリアと避難スペースを簡易に区切ることが可能なこと、かつ大規模災害時にも対応できる十分なスペースが必要となります。しかしながら現状の道の駅「北川はゆま」では十分な避難スペースをあらかじめ確保しておくことは困難であり、また近年、避難準備情報等が早めに発令されることが多くなっており、十分な準備ができない状態で通常営業中のスペースへ避難者を受け入れていくような状況は避ける必要があります。</p> <p>このような観点から、レストラン増築部分と、避難スペースとなる現レストラン部分を簡易に区切れるように配置した設計を行ない「受援拠点」、「避難所」としての機能の確保を図っています。</p>
2	<p>防災施設として避難人員を具体的にどの程度想定してレストランの増築を計画したのか具体的な理由を示してほしい。</p>	<p>一般的な台風接近時などのほか、大規模な災害時の利用も想定し、旧延岡市内で大きな災害が起こった場合にも対応できるよう考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の台風時などの避難者として、30名程度を想定 ・大規模災害時には、80名以上を想定

3	<p>事業費約2億円の内訳を示してほしい。</p> <p>①レストラン増築費用の内訳</p> <p>②非常用発電設備設置の内訳</p>	<p>事業費の概算内訳は以下のとおりです。</p> <p>①レストラン増築費用の概算内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築主体工事 87,000千円 ・ 電気設備工事 52,000千円 ・ 空調設備工事 22,000千円 ・ 管設備工事 16,000千円 <p>②非常用発電設備設置の概算内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常用発電設備設置工事 23,000千円 <p>(燃料槽 (72時間対応)、キュービクル (発電設備設置による増加分) を含む)</p>
4	<p>非常用発電設備容量 100KVAは、一般家庭使用電力の50~100軒分に相当するが、100KVAとした理由 (非常用負荷をどの程度想定して発電設備容量を決定したのか) を示してほしい。</p>	<p>非常用発電設備は「受援拠点」、「避難所」として必要となる下記の使用等における負荷を想定して発電設備容量を算定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レストランの動力電源 (冷凍庫・冷蔵庫・既設新設レストラン部エアコン等) として使用 ・ レストランの電灯電源 (レストラン照明・会議室照明・簡易厨房照明・トイレ照明・一部の冷凍庫冷蔵庫等・一部のコンセント等) として使用 ・ 送水ポンプや浄化槽の動力電源として使用